

子どもたちにタブレット端末を寄贈

31日、区役所に株式会社ベストサポートシステムズの石塚雄剛(いしづかゆうごう)代表取締役らが訪れ、50台のタブレット端末の寄贈が行われました。このタブレット端末は、杉並区立小学校の特別支援学級で、活用していく予定となっています。

株式会社ベストサポートシステムズ(中央区銀座3-11-1)は、2001年11月創業の会社です。業務内容は、ITインフラの整備に関するもので、スマートフォンの普及に伴って、高速データ通信の環境整備や無線LANの設計・施工などを手掛け、現在は150名のスタッフで事業が行われています。



ベストサポートシステムズの石塚代表取締役は、会社の発展とともに子どもたちの将来に役立つ取組をしたいと考えてきました。そこで、社会貢献活動の一環として昨年自分たちが整備をしたIT環境を活用してもらうこともできるタブレット端末の寄贈を行うことにしました。

一方、杉並区ではICTを活用した授業改善に積極的に取り組んできており、平成26年度には全区立小中学校の普通教室に電子黒板付プロジェクターを配備し、また、タブレット端末の導入も計画的に進めています。特に特別支援教育の中でのタブレット端末のメリットは、指やペンで書いた内容を文字変換したり、音声で読み上げたりするソフトを活用することで、一人一人の特性に応じた学習ができることです。

昨年、ベストサポートシステムズの担当者が、杉並区がICT教育に力を入れていることを知ったことから、タブレット端末の寄贈の提案となりました。杉並区はその提案に基づき、平成28年2月にタブレット端末150台の寄贈を受け、130台を杉並第十小学校、20台を済美教育センターで活用しています。そのことが、ベストサポートシステムズの社員全員に報告されると、社員の会社に対する誇りが高まり、子どもたちのためにがんばろうという気持ちから、業績も伸びているということです。

31日、石塚代表取締役ほか2名が、区役所の井出隆安教育長を訪ね、2年続けてのタブレット端末(iPad)50台やiPadの利用環境に必要な機器などの寄贈を行い、区からは感謝状を贈呈しました。石塚代表取締役は、「IT企業として、ICTを活用できる子どもたちが増えることを願っており、今後とも可能な範囲で杉並区教育委員会へ継続的な寄贈を行っていきたい」と語りました。

寄贈されたタブレットは、杉並区立小学校の特別支援学級で活用する予定にしています。

【報道機関 問い合わせ先】

教育委員会事務局特別支援教育課： 電話 03-3311-1921